

③

—さわやかな地域社会

1 地域施設

横浜のような大都市では、地域の人たちが互いにふれあいながら暮らしていくという、いわゆる地域コミュニティを育てていくことが必要となる。それは、いわば地域全体の連帯感を高めていくことでもある。

このような考えから、横浜市では、地域の人たちの交流の場や学習の場となる地域施設の整備に力を入れている。地域施設にはさまざまなものがあるが、ここでは地区センター、図書館、学校開放を中心にとりあげてみることにしよう。

■年に2、3館ペースで建設

「地区センター」 地域連帯を図る施設と



小・中学生とともに、婦人層の利用が多い地区センター



区図書館も7館に達した

して整備を進めている地区センターは、五三年度末で七館であったが、その後、末吉・神大寺・西・南・港南・ほどがや・若葉台など一三館が完成、計二〇館になった（五七年度末）。年に二、三館のペースで建設してきたことになる。さらに現在、中区など三か所で建設を進めている。

地区センターの利用状況をみると、一日

平均利用者は五六年度の場合、約四〇〇人となっている。このうちの五五%が女性で、ここ数年、男性の割合が少しずつ高まってきている。また、婦人が三〇%、小・中学生が三九%となっており、両者で大部分を占める。利用者の居住地域をみると、区内の人が九〇%強となっている。

地区センターは自主的な地域活動の拠点として利用されているだけでなく、運営面でも地域住民が参加している。地元の人たちで組織される委員会が設けられるなど、地域の実情に応じた運営が行われているのである。

このように地区センターは地域に定着してきているが、施設の効率的な活用的一面では今後も研究する余地がある。

■各区一館を目標に整備

【図書館】各区一館を目標に図書館の整備を進めている。四九年の礎子を皮切りに山内・戸塚・鶴見と建設が進み、さらに五五年の金沢・港北に引続き五七年には保土ヶ谷がオープンし、区図書館は七館に達した。五八年度では瀬谷区で建設にとりか

かるほか、一館分の用地取得も予定している。

これら図書館の蔵書数は、野毛の図書館も含め、五七年一〇月現在一〇五万冊に増大し、貸出利用登録者は三九万二〇〇〇人、貸出冊数は五六年度三六五万冊となっている。また、地域の文庫活動に対する団体貸出は、三〇〇団体に三八万冊を貸出し、図書館のない区には重点的に移動図書館車が巡回し、一万八〇〇〇人の登録者に一五万八〇〇〇冊を貸出している。

■着実にふえてきた利用者

【学校開放】五六年度における「学校開放」校は、小・中学校合わせて四〇三校となっている。五二年度に比べ六七校、一九%の増である。開放校がふえるにつれて、利用人員も着実にふえてきた。五二年度を一〇〇（二三五万八五〇〇人）とすると、五六年度では一五一（三五六万七五一六人）にもなる。

以上のほか、市では、地区センターに原則として併設している地区スポーツセンターや区公会堂などの整備も進めている。